

(11)Publication number : 10-201541

(43)Date of publication of application : 04.08.1998

(51)Int.Cl.

A47B 7/00

A47B 9/18

A47B 13/08

A47B 19/06

A47B 21/00

A47B 37/00

A47B 91/02

A47B 91/06

(21)Application number : 09-026156

(71)Applicant : ITOKI CO LTD
ITOKI CREBIO CORP

(22)Date of filing : 24.01.1997

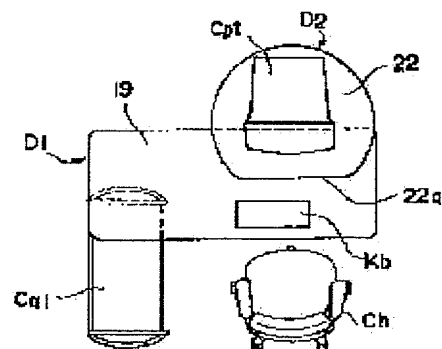
(72)Inventor : OBATA HIRONAGA
KANO TETSUYA
KOSUGI KENICHIRO
FURUSAWA YOSHIHIKO

(54) OFFICE DESK

(57)Abstract:

PROBLEM TO BE SOLVED: To provide an office desk which is formed to be small and light in weight, easily forms the mounting part of an OA equipment, etc., in various forms and easily realizes the height of a top plate matched with a using purpose, a user's built, etc.

SOLUTION: This office desk is provided with a main desk D1 provided with a nearly rectangular top plate 19 on the top ends of right and left leg frames with adjusters and a sub desk D2 provided with a circular or arc-formed top plate at the upper tip of an extensible mono pole type frame. Then the top plate of the sub desk D2 is partially overlapped to one side edge of the top plate 19 of the main desk D1 and arranged in setting the direction of the top plate to a necessary one to combine the main desk D1 and a sub desk D2 to use as one desk. On the other hand, plural sub desks D2 are arranged by moving to an optional place in the office.



(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-201541

(43) 公開日 平成10年(1998) 8月4日

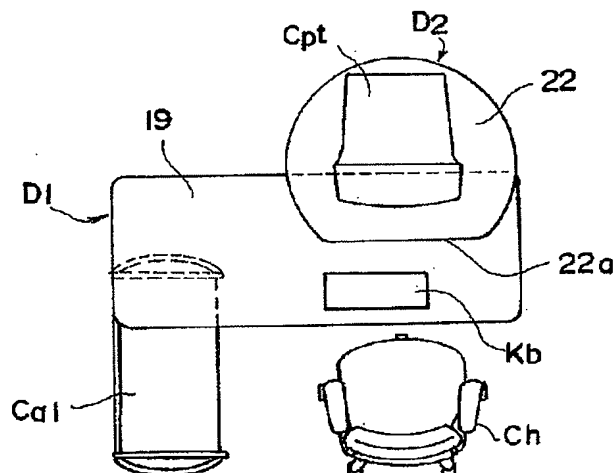
<p>(51) Int.Cl.⁶</p> <p>A 4 7 B 7/00</p> <p>9/18</p> <p>13/08</p> <p>19/06</p> <p>21/00</p>	<p>識別記号</p>	<p>F I</p> <p>A 4 7 B 7/00</p> <p>9/18</p> <p>13/08</p> <p>19/06</p> <p>21/00</p>	<p>A</p> <p>A</p>
<p>審査請求 未請求 請求項の数 5 F D (全 14 頁) 最終頁に続く</p>			
<p>(21) 出願番号 特願平9-26156</p> <p>(22) 出願日 平成9年(1997) 1月24日</p>	<p>(71) 出願人 000127282 株式会社イトーキ 大阪府大阪市中央区淡路町1丁目6番11号</p> <p>(71) 出願人 000139780 株式会社イトーキクレビオ 大阪市城東区今福東1丁目4番12号</p> <p>(72) 発明者 小畑 広 永 東京都港区西麻布2丁目13番6号 有限会社ヒロデザイン研究所内</p> <p>(72) 発明者 狩野 徹 也 東京都港区西麻布2丁目13番6号 有限会社ヒロデザイン研究所内</p> <p>(74) 代理人 弁理士 樋口 盛之助 (外1名) 最終頁に続く</p>		

(54) 【発明の名称】 オフィス用デスク

(57) 【要約】 (修正有)

【課題】 小型、軽量に形成すると共に、OA機器等の載置部を様々な形態で容易に形成することができ、また、使用目的や使用者の体格等に合致した天板の高さを容易に実現できるオフィス用デスクを提供する。

【解決手段】 アジャスタ16eを有する左、右の脚フレーム16の上端に略長方形の天板19を設けたメインデスクD1と、円形状乃至は円弧状をなす天板21、26を、伸縮可能な単ボール型脚フレーム20、24の上端に設けたサブデスクD2、D3とから成り、前記メインデスクD1の天板19の一侧辺にそのサブデスクD2、D3の天板21、26を部分重複させ、かつ、当該天板21、26の向きを所要の向きに配置することにより、前記メインデスクD1とサブデスクD2、D3を組合せて一のオフィス用デスクとして使用する一方、前記サブデスクD2、D3の複数本をオフィス内の任意の箇所に移動させて配置する。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 足にキャスタを内装したアジャスタを有する側面視逆T字状又はL字状をなす左、右の脚フレームの上端に略長方形の天板を設けたメインデスクと、前記デスクの天板の周側辺に線当接可能な直線辺を一部に有する平面視大略円形状乃至は円弧状をなす天板を、足にキャスタを内装したアジャスタを有する伸縮可能な単ボール型脚フレームの上端に設けたサブデスクとから成り、前記メインデスクの天板の一側辺にサブデスクの天板の高さを合せてその直線辺を線当接させるか、又は、サブデスクの天板の高さを変えてそのサブデスクの天板をメインデスクの天板と任意の位置において部分重複させ、かつ、当該サブデスクの天板の向きを所要の向きに配置することにより、前記メインデスクとサブデスクを組合せて一のオフィス用デスクとして使用する一方、前記サブデスクの複数本をオフィス内の任意の箇所に移動させて配置することにより、打合せコーナや立ち会議用のデスクとして使用するようにしたことを特徴とするオフィス用デスク。

【請求項2】 サブデスクの足は、平面視放射状又は多角形若しくは円形である請求項1のオフィス用デスク。

【請求項3】 サブデスクの足は、狭角が略90度～120度の平面視ほぼ逆V状をなすと共に、天板は平面視ほぼ1/4円形乃至は1/3円形をなし、かつ、天板はその円弧の略中心においてボール型脚の上端に前後傾斜角を調節可能に設けた請求項1のオフィス用デスク。

【請求項4】 単ボール型脚フレームは、その適宜の高さ位置に、フロントパネル、又は、収納ボックスを着脱自在に設けた請求項1～3のいずれかののオフィス用デスク。

【請求項5】 メインデスクの天板は昇降可能に形成した請求項1～4のいずれかののオフィス用デスク。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は組合せて使用するのに適した主としてオフィス用デスクに関するものである。

【0002】

【従来の技術】近時、一般のオフィスでは、各個人ごとにパーソナルコンピュータやワードプロセッサ等のOA機器を使用するケースが増たため、使用するデスクが従来の単なる長方形天板を具備したものでは、OA機器の設置スペースが不足するという問題がある。

【0003】このような点に鑑み、OA機器等の設置スペースとなる膨出部分を形成した異形天板を有するデスクが提供されるようになったが、これだとデスク自体が大型化し、また、このデスクは、使用するOA機器の電源、信号ラインに、床や天井からの外部の電源、信号ラインを接続するため電源、信号ケーブルを収納、処理するための配線ダクトが設けられているため、前記大型化

と相俟って重量も大きくなり、運搬や保管の面で有利とはいえず、また、オフィス内での移動も簡単には行えないという問題がある。

【0004】一方、最近のオフィスにおける業務形態は、デスク等の什器をいわゆる部、課、係単位で固定的に配置した形態のほかに、例えば、業務内容などによって、その業務内容単位で前記部課係を超えた範囲において担当メンバーを選出して業務チームを編成し、このチーム構成メンバーがオフィス内の所要箇所に自分のデスクやOA機器を移動させて業務チーム単位でその業務用のオフィス空間を形成することが多くなった。このような場合、従来タイプの固定型のデスクでは容易かつ迅速にオフィス内を移動させ難いという問題がある。

【0005】

【発明が解決しようとする課題】本発明は上記のような現状のオフィス用デスクに起因した問題点に鑑み、オフィス用のデスクをオフィス内で移動し易いように小型、軽量に形成すると共に、OA機器等の載置部を様々な形態で容易に形成することができ、また、使用目的や使用者の体格等に合致した天板の高さを容易に実現することができるようにしたオフィス用デスクを提供することを課題とするものである。

【0006】

【課題を解決するための手段】上記課題を解決することを目的としてなされた本発明デスクの構成は、足にキャスタを内装したアジャスタを有する側面視逆T字状又はL字状をなす左、右の脚フレームの上端に略長方形の天板を設けたメインデスクと、前記デスクの天板の周側辺に線当接可能な直線辺を一部に有する平面視大略円形状乃至は円弧状をなす天板を、足にキャスタを内装したアジャスタを有する伸縮可能な単ボール型脚フレームの上端に設けたサブデスクとから成り、前記メインデスクの天板の一側辺にサブデスクの天板の高さを合せてその直線辺を線当接させるか、又は、サブデスクの天板の高さを変えてそのサブデスクの天板をメインデスクの天板と任意の位置において部分重複させ、かつ、当該サブデスクの天板の向きを所要の向きに配置することにより、前記メインデスクとサブデスクを組合せて一のオフィス用デスクとして使用する一方、前記サブデスクの複数本をオフィス内の任意の箇所に移動させて配置することにより、打合せコーナや立ち会議用のデスクとして使用するようにしたことを特徴とするものである。

【0007】本発明オフィス用デスクは、従来の1本のデスクにおける1枚の天板をいわば分割して小面積に形成した天板を有するメインデスクとサブデスクとに、夫々に独立したデスクとして形成したものを組合せて使用するように形成し、夫々のデスクには、原則として袖キャビネットやセンター抽出し、或は、配線ダクトを設けることなくコンパクトで軽量に形成したこと、並びに、少なくともサブデスクは天板の高さを任意に調節できる

ようにしたことにより、メインデスクとサブデスクの天板の組合せ形態の多様化を図る一方で、オフィス内での移動を容易かつ迅速に出来るようにした点に特徴を持たせたものであるから、以下、この点について図により説明する。

【0008】

【発明の実施の形態】図1～図18は、本発明デスクの実施の形態を示すもので、図1は本発明デスクにおけるメインデスクの正面図、図2は図1のデスクの側面図、図3は天板の傾斜機能を説明するための側面図、図4は図1のデスクの斜視図、図5はメインデスクの別例の斜視図、図6は図4のメインデスクにフロント柵を設けた例の斜視図、図7は図4のメインデスクにフロントパネルを設けた例の斜視図、図8は図4と図5のメインデスク同士を組合せた例の斜視図、図9は本発明デスクにおけるサブデスクの一例の正面図、図10は図9のデスク平面図、図11は図6のサブデスクの天板の別例の平面図、図12は図10のサブデスクの斜視図、図13は図11のサブデスクの斜視図、図14は本発明デスクにおけるサブデスクの別例の平面図、図15は図14のサブデスクの正面図、図16は図14のサブデスクの側面図、図17は図14のサブデスクの斜視図、図18は図17のサブデスクの脚にフロントパネルを設けた例の斜視図、図19は天板を略正方形にし、脚に収容部を設けた図14のサブデスクの別例の斜視図、図20～図25は、図4のメインデスクと図12のサブデスクの組合せ配置例をそれぞれ示す平面図、図26～図30は、図4のメインデスクと図13のサブデスクの組合せ配置例をそれぞれに示す平面図、図31～図34は、図4のメインデスクと図17のサブデスクの組合せ配置例の平面図、図35、図36は図12のサブデスク同士の組合せ配置例を示す平面図、図37、図38は図13のサブデスク同士の組合せ配置例を示す平面図、図39～図41は図17のサブデスク同士を組合せ配置例を示す平面図である。

【0009】図1～図3は本発明デスクにおけるメインデスクの一例としてデスクD1を示す。これらの図において、16aは、水平な足16aとその中間部に立設した支柱16bにより側面略逆T状に形成し、その2本を左右平行に並べ、左右の支柱16bの上端を梁部材17で連結することによって、正面視略門型をなすように形成した脚フレームである。脚フレーム16における左、右の支柱16bは、油圧式、空圧式、機械式いずれかの手段、ここでは空圧シリンダ16gにより昇降するようにした内支柱16cを具備しており、梁部材17は、この左、右の内支柱16c間に架設されている。

【0010】上記梁部材17には、図3に示すように左右側に天板19の前後方向での傾斜角の調節機構になるシリンダユニット18aを具備した天板支持アーム18、18、又は、図2に示すように天板14の傾斜角調節機構を具備しない天板支持アーム18、18が設けられ、天板19は、これらの左右のアーム18の手前側に枢着されている。

【0011】上記脚フレーム16における足16aの下面には、このメインデスクD1の移動と定置を選択するボールキャスタ16dを内蔵したアジャスタ16eが設けられている。即ち、アジャスタ16eはボールキャスタ16dを中心部に内装したリング状の物を使用し、アジャスタ16eの正逆回転によって、キャスタ16dを接地させるか、アジャスタ16eの下面を接地させるかのいずれかを選択することができるように形成されており、ボールキャスタ16dが接地しているときは押し引きしてそのままデスクD1の移動ができ、アジャスタ16eのリングが接地しているときは、そのまま押し引きしても移動はできない。以上により本発明デスクにおけるメインデスクD1の一例が形成されている。

【0012】メインデスクD1において、上記脚フレーム16に支持させる天板19の平面形状は、図4に示すように、基本的には長方形乃至は四辺形であるが、図5に例示するように天板19の左、右の一方の側が円弧状部19aに形成されたメインデスクD1'、或は、図示しないが、双方が円弧状の側縁に形成されたものや四辺形が全体として弯曲された形状のものなど、異形長方形をなすものであってもよい。なお、このメインデスクD1、D1'において左、右の脚フレーム16のうち一方の脚フレーム16の足16aは、図示しないが、円板状の足や平面星形状の足を使用したものであってもよい。また、図1における16fは内支柱16cの昇降操作ハンドル、18bは天板角度変更用の操作ハンドルである。更に、上記のメインデスクD1は、図6に示すその天板19の前端側に柵板Lpを設けたもの、或は、図7に示す遮蔽パネルFpを設けたものがある。そして、図4と図5に示したメインデスクD1、D1'同士を、図8に例示するように組合せて一のデスクに形成することもある。この組合せにおいては2枚の天板19、19を当接接合した直交する凹隅部に、補助天板Sbを架け渡し、コンピュータCptのキーボードKpを載置できるようにしている。

【0013】図9～図13は本発明デスクにおけるサブデスクD2の例を示すもので、これらの図において、20aは平面視略星形状の足20aの中心に昇降（伸縮）自在に組合せたテレスコピック状に組合せた内、外支柱20b、20cを立設した脚フレームで、このデスクD2は前記内支柱20cの上端に、略円形状の天板21を載架して構成される。ここで、各足20aの先端下面には、先の例と同様のボールキャスタ20dと、このキャスタ20dを内装したリング状のアジャスタ20eが設けられ、このサブデスクD2の移動、定置が選択できるように形成されている。20fは支柱昇降の操作ハンドル、20gは昇降用のガスシリンダである。ここで、足20aには平面視略星形状のものを使用した。また、このサブデスクD2の天板21は、図10、図11、図12、図13の平面図、斜視図に示すように、円形天板の一侧を直線状に截断し直線辺22aを有する天板22、或は、天板の一半側を略90

度コーナ部を有する直線辺23aに形成した形状の天板23など、外周辺の一部に直線辺を形成した天板を用いたものである。前記直線辺22a、23aは、サブデスクD2をメインデスクD1の天板に同面で当接させて配置するとき、間に隙間が生じないようにするためである。

【0014】図14～図19は、本発明デスクにおける別のサブデスクD3を例示するもので、図14は平面図、図15は正面図、図16は図11の右側面図、図17～図19はサブデスクD3の実施形態例の斜視図である。このサブデスクD3では、脚フレーム24cに平面視逆V字状で開き角が略90度の2本足24aを使用し、昇降自在に組合せたテレスコピック状の支柱24b、24cが前記足24aの略交点上に立設されている点が、上述したサブデスクD2の脚フレーム20と異なっている。そして、この内支柱24cの上端に設けた天板角傾斜機構25の上に、足24aの開き角と同等の中心角を持つ平面視略1/4円弧状の天板26を載架して、サブデスクD3を構成している。なお、24dはボールキャスタ、24eは前記キャスタ24dを内蔵したリング状アジャスタである点は、先のデスクD1、D2の場合と同旨である。また、24fは高さ調節用の操作ノブ、24gは昇降用のガスシリンダ、25aは天板26の角度調節用の操作ノブである。

【0015】このサブデスクD3は、メインデスクD1と組合せて一のデスクに形成するほか、その天板26、足24aの平面形状から、複数のサブデスクD3同士を突合せ状態、或は、適当に離隔して、例えば、で対向的、或は、ほぼ花卉状などのように配置することができるので、サブデスクD3単独で小会議や打合せコーナを形成するためのデスクとしても使用することができる。もっとも、デスクD3において、天板26は1/4円弧状のものに限られる訳ではなく、図示しないが、足24aを120度に形成すると共に、天板26もそれに合せた中心角の円弧状に形成したもの、或は、図19に例示した矩形や、円形であっても何ら支障はない。また、このサブデスクD3は、図18、図19に示すように脚フレーム24cにおける支柱24bの前面に、パンチングプレスしたパネルPnや収納ボックスPbを、必要に応じて取付けることができるように形成されている。

【0016】上述した形態をとるメインデスクD1とサブデスクD2又はD3は、メインデスクD1とサブデスクD2とを組合せて図20～図30の配置形態で一のワークステーションに形成して使用したり、或は、メインデスクD1とサブデスクD3とを組合せて図31～図34の配置形態で一のワークステーションに形成して使用するほか、サブデスクD2又はD3同士を、図35～図41に例示するように組合せ配置して打合せコーナや会議コーナ等を形成する。以下、この点について説明する。

【0017】図20は、メインデスクD1の天板19の右側に、サブデスクD2の天板22を、前記天板19と同じ高さ

に調節してその直線辺22aを突合せ当接配置した状態の平面図である。この図の例では、天板19と22が同面であるから、両天板19、22にまたがってキーボードKbなどを置くことができる。図20において、CptはCRTと一体のコンピュータ本体又はCRT、Ca1は天板19の左側下に配置した移動、定置自在のワゴンキャビネット、Chは椅子である。

【0018】図21～図24は、サブデスクD2の天板22の高さを、メインデスクD1の天板19より上位になるように調節した上で、その天板22の直線辺22aをメインデスクD1の天板19に対して種々の向きに、かつ、天板19の上に天板22の一部をオーバハングさせて配置した例である。このようにデスクD2の天板22をメインデスクD1の天板より高く位置付けると、サブデスクD2の天板22を支持する脚フレーム20が単ボールタイプであること、及び、足20aが星形であることにより、これらがメインデスクD1の脚フレーム16とその足16aに干渉することなく、サブデスクD2をメインデスクD1に対し任意の位置に位置付けることができる。このとき、天板22の直線辺22aの位置を種々選択することにより、メインデスクD1、サブデスクD2の組合せにより形成される一のワークステーションと隣接する他のワークステーションのデスクの辺、或は、他の間仕切パネル、什器等との関係の整合をとることができる。

【0019】図25～図29は90度コーナの直線部23aを形成した天板23を有する図13のサブデスクD2とメインデスクD1との組合せ配置例を示すもので、図26はメインデスクD1の天板19にサブデスクD2の天板23の高さを合わせ、天板23の直線辺23aを、前記天板19の右側に突合せ当接させたものである。この場合、天板23を天板19の左、右のいずれの側、或は、前辺に当接させるか、並びに、このとき天板23の2つの直線辺23a、23aのどちらを当接させるかは任意である。図27～図29はサブデスクD2の天板23を、メインデスクD1の天板19よりも高い位置に調節し、かつ、前記天板23の向きと天板19の各辺に対する配置位置を変えて天板19の一部をオーバハングさせて組合せ配置した例である。図30はサブデスクD2の天板23をメインデスクD1の天板19により下位に調節し、天板19の下に天板23の一部を入れて配置した例である。

【0020】図30～図33は、メインデスクD1とサブデスクD3の組合せ配置例で、図31は両デスクD1、D3の天板19、26を、天板26の高さを調節して同じ高さにして配置した例である。この場合においても、サブデスクD3をメインデスクD1の天板19のどの辺に当接させるかは任意である。図32は天板26をメインデスクD1の天板19より下位にして天板19の手前側に配置し、ここではキーボードKpの置台として配置した例、図33、図34は、サブデスクD3の天板26を天板19より高位に調節してその天板19にオーバハングさせて配置し、サブデスクD3をCRT一体のCpt本体、或は、CRT置台として配置した例である。

【0021】図34、図35は天板22を具備したサブデスク

D2同士を、図36、図37は天板23を具備したサブデスクD2同士を、適当に当接配置して、ここでは打合せコーナに形成した平面図である。これらの天板22、23を有するサブデスクD2同士の配列形態は、図示したものに限られず、任意の配列パターンを形成することが可能である。図38～図40はサブデスクD3同士を配置して打合せコーナや会議コーナを形成した例である。このサブデスクD3同士の配列においてもそのパターンは図示したものに限られず、任意に配列することができる。

【0022】以上に説明した本発明デスクは、メイン、サブの両デスクD1～D3ともすべて、天板19、22、23、26と脚フレーム16、20、24とからのみ形成され、従来デスクのように袖キャビネットや配線ダクトは一切設けられないこと、及び、従来デスクの異形天板をいわば分割したのと同等の天板19と、天板22又は23、26を夫々に有するメインデスクD1とサブデスクD2又はD3の組合せることによって、一のデスクを形成するようにしたので、個々のデスクD1～D3は、きわめて簡潔な構造で、かつ、小型、軽量に形成することができる。

【0023】このため、上記のデスクD1とD2、D3を組合せて形成したワークステーションで使用するOA機器の電源、信号ラインをどのように取込むかを解決する必要がある。上記の本発明デスク上で使用されるOA機器の電源、信号ラインの取込みは、一例として、図42～図45に示す電源、信号ラインの取出装置を利用し、図46、図47に例示したような形態で取込むようにしたので、次にこの点について述べる。

【0024】図41に於て、1は、図43に例示した平断面形状を有するボール状の柱状体で、図42はこの柱状体1を主体にしてオフィス床面に立設される、電源ライン及び信号ライン、又は、いずれか一方のライン（以下、これらのラインを電源、信号ラインという）の取出装置（以下、柱状体1による電源、信号ラインの取出装置を取出ポイントPvsという）を形成する。

【0025】柱状体1は、図42に例示するように、内部が中空の芯管1aの外周に、放射状に略等間隔で隔壁1b、1cを設け、各壁1b、1cの外端部に部分周壁1d、1eを形成したものである。ここで、前記隔壁1bは、芯管1aに直交する向きで二重壁に形成し、隔壁1cは前記二重の隔壁1b、1bの中間部に形成されている。

【0026】上記の断面形状により、柱状体1は、隣合う隔壁1b、1cが形成する断面V字状の溝が形成する空間内に、床下に敷設された電源ケーブル又は信号ケーブルに接続された電源ケーブルVc及び信号ケーブルSc、又は、いずれか一方のケーブル（以下、これらのケーブルを電源、信号ケーブルという）を、この柱状体1の外周からその溝状部内に収納、出入れすることができる。そして、各壁1b、1cの外端部には全体として柱状体1の周壁を形成する部分周壁1d、1eが形成されているので、収納した上記ケーブルVc、Scは溝状部から逸脱し難い。な

お、柱状体1の溝状部に入れた上記ケーブルVc、Scをその溝から完全に出さないようにするには、図43に仮想線で例示したように、着脱自在の溝キャップGcを装着してもよい。また、二重に形成された壁1dは、後述するパネル等の部材の係止溝として利用される。更に、各隔壁1cの外端部に形成された部分周壁1eは、後述する電源用又は信号用の夫々のコネクタCv、Csの装着部として利用される。

【0027】上記構造を具備したボール状の柱状体1は、図41に示す態様において、オフィス空間内の床下又は天井裏に敷設されている電源、通信ケーブルに接続された電源、信号ラインの取出ポイントPvsとして形成される。即ち、図42において、柱状体1の下端に、ここでは円板状の安定板2を設けると共に、上端に、比例的小径の天板3を設けて形成した本発明による電源、信号ラインの取出ポイントPvsに形成されている。ここで、安定板2には、床下に既に敷設されている電源ケーブルVc及び信号ケーブルScに接続された電源、信号の各ケーブルVc、Scの取出穴2a、2bが形成され、この穴2a、2bから夫々に取出されたケーブルVc、Scが柱状体1の溝部に収装されてそのケーブルVc、Scの先端に接続されたそれぞれのコネクタCv、Csが、所望の高さに配置されている。配置できるコネクタCv又はCsの位置は、柱状体1の外周上では、4ヶ所の部分周壁1eの上であり、同一周壁上の上下方向において2個以上のコネクタCv又はCsを設けることは任意である。上記の安定板2は、柱状体1を床上に固定する場合には、小さ目の円形乃至は翼状に形成したものを使用することがある。

【0028】なお、柱状体1の周囲には、図44に示すように、二分割タイプに形成した円筒状をなすカバー体4を、当該柱状体1に支持させて設けることがある。このカバー体4は、金属板、プラスチック板、それらのパンチング穴明板等の適宜の板体により形成し、ここではケーブル導入用の切欠4bを有する底板4aを設けて有底に形成しているが、底板4aの設定は任意である。

【0029】上記カバー体4の外径は、ここでは天板3と略同径程度に形成し、柱状体1とカバー体4の間に形成される空間にそれぞれの余長ケーブルCv、Csを収納したり、これらの電源、信号ライン用の中継機材、例えば、ブースタアンプや配電箱等の必要な機器、器材Vn、Snを収納することができるように形成されている。

【0030】上記の柱状体1の下部には、カバー体4に代え、図44に示すように比較的容積の大きな収納ボックス5を設けることがある。収納ボックス5は、上面を開口した有底の筐状に形成し、このボックス5の壁面と底には通線用のスリット5aと穴状の切欠き5bを設け、内部に電源、信号ラインに必要な中継機器Vn、Sn等を収装することができるように形成されている。

【0031】図44は、上記で説明した柱状体1を使用した電源、信号ラインの取出ポイントPvsと、図44に例示

した断面形状をもつ横杆体9とを用い、該横杆体9を床に平行な面内でオフィス空間内に敷設し、本発明の電源、信号ラインの取出装置を、任意のライン状に形成した一例（以下、床に平行なライン状の電源、信号ラインの取出装置を取出ラインLvsという）の斜視図である。

【0032】電源、信号ラインの取出ラインLvsを形成する横杆体9の構成を図44により、またこの横杆体9と柱状体1の接続形態と構造の一例を図45により説明する。

【0033】横杆体9は、その断面において柱状体1の芯管1aと同形の芯管9aの上、下に、前記柱状体1における二重壁1bと同様の二重壁9bを突設すると共に、ここでは下方の二重壁9bから左、右に2組の壁9c、9dを突出させ、各壁9b～9dの相互の間に、ケーブルVc、Scを収めるための溝部が形成されるようにしている。なお、9e、9fは前記壁9c、9dの先端部に設けて全体としてこの横杆体9の周壁をなすように形成した部分周壁、9gは二重壁9bの先端に形成した同旨の部分周壁である。

【0034】上記のような断面形状を有する横杆体9は、各壁9b～9fにより形成された溝部が、平面からみて概ね上方を開口した溝部に形成されるので、各溝に電源ケーブルVc又は信号ケーブルScを上から投入することにより、両ケーブルVc、Scを外部からは見えないように収めることができることとなる。従って、前記両ケーブルVc、Scについて、横杆体9の任意の位置におけるケーブル先端に、コネクタCv、Csを接続し、このコネクタCv、Csを横杆体9の上の部分周壁9eに装着することにより、横杆体9の任意の位置で電源、信号ラインと適宜の電子機器等との接続をすることができるように形成されている。

【0035】上記横杆体9と柱状体1は、一例として図45に示す接続ジョイントを使用して接続する。即ち、柱状体1、横杆体9はともに、中心に同形状の芯管1a、9aを具備しているので、この芯管1a、9aに、ジョイント方向に沿って形成したジョイント部材10の両端部10a、10bを嵌入して、両部材1、9の設置方向を規定する。図46の例は、垂直に立上げた柱状体1と水平に延びた横杆体9とを、90度曲げて形成したジョイント部材10で接続したものである。なお、10c、10dは芯管1a、9aに嵌入したジョイント部材10の固定ビスである。

【0036】柱状体1と横杆体9は、ジョイント部材10で接続したままの状態であると、ジョイント部材10の部分に、柱状体1の溝部から横杆体9の溝部に導入される各ケーブルVc、Scがジョイント部分で外部に露出することとなり、見映えがよい。そこで本発明では、図45に示すジョイント部カバー11を使用している。

【0037】このカバー11は、合成樹脂等により形成した背骨状のフレキシブルな主骨材11aに、先略テーパー状をなし、かつ、下部が開放された略リング状の支骨材11を適当なピッチでこの主骨材11aに列設することによ

り形成し、主骨材11aの前、後両端部11c、11dを、柱状体1と横杆体9の二重壁1d、9gにより形成された溝に挟持させることにより、両部材1、9の接続部分をカバーするようにしている。

【0038】上記のようにして柱状体1と横杆体9は、ジョイント部材10等を用いてオフィス内に形成される電源、信号ラインの取出ポイントPvsと取出ラインLvsの一例に形成される。図45の取出ラインは、複数本の柱状体1と複数本の横杆体9とを、図45の左側から順に、三方向ジョイント部材と二方向ジョイント部材10を用いて接続することにより形成されている。図44において、図41～図43の符号と同一符号は、同一部材又は同一部分を指す。

【0039】図44の取出ラインにおいては、図の左側下方に位置する柱状体1は、天井側の電源、信号ラインを取出して天板側に配設された上方の柱状体1の支持支柱を兼用し、横杆体9との接続部の始端として機能するように配置されている。また、図45の中間部に位置した柱状体1は、長さ方向で接続される横杆体9、9の接続部を、三方向ジョイント部材10を介して支持する支柱として設けられている。そして、このようにして組立てられる柱状体1と横杆体9の上、下の二重壁9bが形成する隙間状の溝には、一例としてスクリーンやパネル12、13を支持させて取付けてある。尚、パネル13には収納ボックス5と同様の収納ボックス6が取付けてある。6aはこのボックスの通線用スリット、6bは底板の穴状切り欠きである。

【0040】図46、図47は、図44と同じ要領で形成した電源、信号の取出ラインLvsに対して、本発明デスクD1～D3を配置した例を示すものである。この取出ラインLvsでは、横杆体9の上面に、当該横杆体9における上位の二重壁9bに、断面略T状の天板支持ブラケット（図に表われず）を支持させ、該ブラケットの上にカウンター天板14、15を載架している。図46、図47において、取出ポイントPvs、取出ラインLvsに対して配置される本発明デスクD1～D3の周囲には、ワゴンキャビネットCa1、Ca2、椅子Chが配置され、各デスクD1～D3の天板19、22、23、26や前記キャビネットCa1、Ca2の上面には、必要なOA機器、即ち、コンピュータCpt、キーボードKb、プリンタPr、ファクシミリFx、電話器Phなどが配置され、ワークブースの一例が形成されている。

【0041】本発明デスクD1～D3は、上記のように形成されるワークブースにおいて、そのメインデスクD1或はサブデスクD2、D3を、自由に移動させてオフィス内の他の場所に設けられている取出ポイントPvsや取出ラインLvsに対し、業務内容、例えば、打合せや会議などの業務内容、或は、その形態に合わせて適宜移動させてレイアウトすることにより、そこに別の業務のためのブースを容易に形成することができる。そして、新たにデスクD1～D3を配置した場所でコンピュータやワープロ等のOA

機器を使用する場合、その場所に設置されている取出ポイントPvsや取出ラインLvsから、使用するOA機器に電源、信号ラインを容易かつ迅速に接続して取出することができる。

【0042】

【発明の効果】本発明オフィス用デスクは以上の通りであって、従来のオフィス用デスクの一枚の天板をいわば分割した形態の比較的小面積に形成した天板とこの天板を支持する脚フレームによって移動、定置自在のメインデスクとサブデスクを構成すると共に、少なくともサブ

デスクは天板を昇降自在に構成することにより、一本のメインデスクとサブデスクを組合せた状態で従来の一本分のデスクを形成するようにしたから、サブデスクをメインデスクの天板に対して任意の位置に自由に配置することができるので、一本のデスクとしての天板形状を使用形態等に合せて、特にOA機器操作と通常の文書事務等の割合などを見ながら自由に形成することができるという、従来の事務用デスクにはない形態を容易に実現できるという利点がある。

【0043】また、サブデスクのメインデスクに対する配置において、そのサブデスクの天板の高さをメインデスクの天板より高くしたり、或は、低くすること、並びに、メインデスクに対するサブデスクの位置と向きを自由に選択することが容易に可能であるから、両デスクの天板を、使用目的や業務形態などに応じた天板形態を持つ一のデスクに容易かつ迅速に形成することができる。

【0044】しかも、本発明デスクは、メイン、サブの両デスクとも、天板とそれを支持した脚フレームのみにより形成し、袖キャビネットや配線ダクト、或は、これらにセンター抽出を含めて全く設けないので、メイン、サブの両デスクとも、製造手間ともコストともそれ程かからず、また、小型、軽量化もでき、従って、オフィス内で移動させて使用するデスクとしてきわめて有用である。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明デスクにおけるメインデスクの正面図。

【図2】図1のデスクの側面図。

【図3】天板の傾斜機能を説明するための側面図。

【図4】図1のデスクの斜視図。

【図5】メインデスクの別例の斜視図。

【図6】図4のメインデスクにフロント棚を設けた例の斜視図。

【図7】図4のメインデスクにフロントパネルを設けた例の斜視図。

【図8】図4と図5のメインデスク同士を組合せた例の斜視図。

【図9】本発明デスクにおけるサブデスクの一例の正面図。

【図10】図9のデスク平面図。

【図11】図6のサブデスクの天板の別例の平面図。

【図12】図10のサブデスクの斜視図。

【図13】図11のサブデスクの斜視図。

【図14】本発明デスクにおけるサブデスクの別例の平面図。

【図15】図14のサブデスクの正面図。

【図16】図14のサブデスクの側面図。

【図17】図14のサブデスクの斜視図。

【図18】図17のサブデスクの脚にフロントパネルを設けた例の斜視図。

10 【図19】天板を略正方形にし、脚に収容部を設けた図14のサブデスクの別例の斜視図。

【図20】図4のメインデスクと図12のサブデスクの組合せ配置例を示す平面図。

【図21】図4のメインデスクと図12のサブデスクの組合せ配置例を示す平面図。

【図22】図4のメインデスクと図12のサブデスクの組合せ配置例を示す平面図。

【図23】図4のメインデスクと図12のサブデスクの組合せ配置例を示す平面図。

20 【図24】図4のメインデスクと図12のサブデスクの組合せ配置例を示す平面図。

【図25】図4のメインデスクと図13のサブデスクの組合せ配置例を示す平面図。

【図26】図4のメインデスクと図13のサブデスクの組合せ配置例を示す平面図。

【図27】図4のメインデスクと図13のサブデスクの組合せ配置例を示す平面図。

【図28】図4のメインデスクと図13のサブデスクの組合せ配置例を示す平面図。

30 【図29】図4のメインデスクと図13のサブデスクの組合せ配置例を示す平面図。

【図30】図4のメインデスクと図17のサブデスクの組合せ配置例の平面図。

【図31】図4のメインデスクと図17のサブデスクの組合せ配置例の平面図。

【図32】図4のメインデスクと図17のサブデスクの組合せ配置例の平面図。

【図33】図4のメインデスクと図17のサブデスクの組合せ配置例の平面図。

40 【図34】図12のサブデスク同士の組合せ配置例を示す平面図。

【図35】図12のサブデスク同士の組合せ配置例を示す平面図。

【図36】図13のサブデスク同士の組合せ配置例を示す平面図。

【図37】図13のサブデスク同士の組合せ配置例を示す平面図。

【図38】図17のサブデスク同士の組合せ配置例を示す平面図。

50 【図39】図17のサブデスク同士の組合せ配置例を示す平面図。

面図。

【図40】図17のサブデスク同士を組合せ配置例を示す平面図。

【図41】柱状体により形成した電源、信号ラインの取出ポイントの一例の斜視図。

【図42】図42の柱状体の平断面図。

【図43】電源、信号ラインの取出ラインを形成する横杆体の一例の側断面図。

【図44】柱状体と横杆体を組合せて形成した電源、信号ラインの取出装置の一例の斜視図。

【図45】柱状体と横杆体の接続構造の一例の正面図。

【図46】本発明デスクを電源、信号ラインの取出装置に対してレイアウトした一例の斜視図。

【図47】本発明デスクを電源、信号ラインの取出装置に対してレイアウトした別例の斜視図。

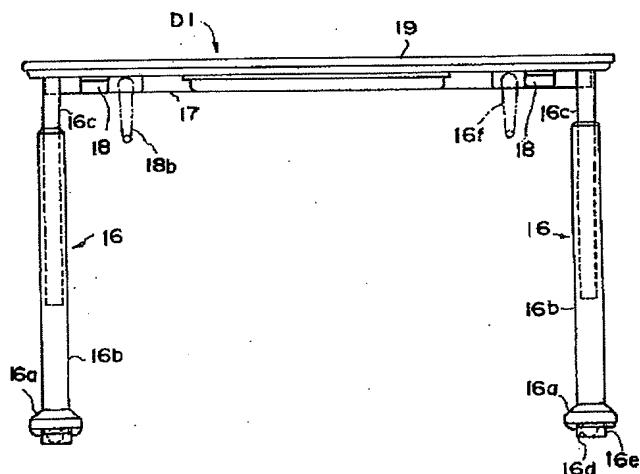
【符号の説明】

- 16 脚フレーム
- 16a 水平な足
- 16b 支柱
- 16c 左、右の内支柱
- 16d キャスタ
- 16e アジャスタ
- 16f 昇降操作ハンドル
- 17 梁部材
- 18 支持アーム
- 18a 傾斜角調節シリンダ
- 18b 天板角度変更用の操作ハンドル

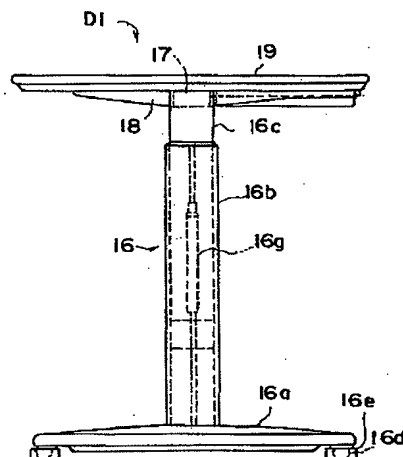
- * 19 天板
- 20 脚フレーム
- 20b, 20c テレスコピック状の支柱
- 20d キャスタ
- 20e アジャスタ
- 20f 支柱昇降の操作ハンドル
- 21 円形天板
- 22 截断した形状の天板
- 23 コーナ部に形成した形状の天板
- 10 24 脚フレーム
- 24a 2本足
- 24b, 24c テレスコピック状の支柱
- 24d ボールキャスタ
- 24e リング状アジャスタ
- 24f 高さ調節用操作ノブ
- 25 天板角傾斜機構
- 25a 天板26の角度調節用のノブ
- 26 平面視略1/4円弧状の天板
- D1, D1' メインデスク
- 20 D2, D3 サブデスク
- Vc 電源ケーブル
- Sc 信号ケーブル
- Cv, Cs コネクタ
- Vn, Sn 中継機器、器材
- Pvs 取出ポイント
- Lvs 取出ライン

*

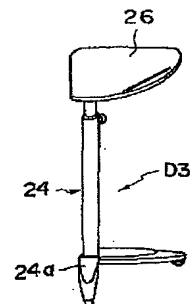
【図1】



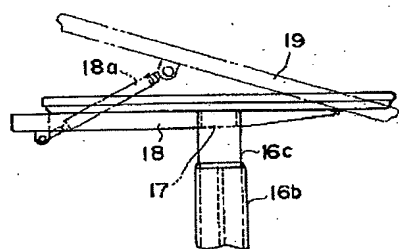
【図2】



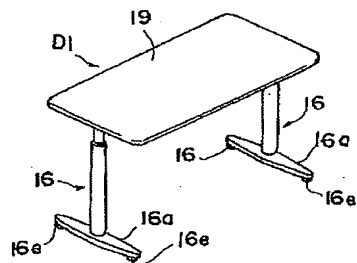
【図17】



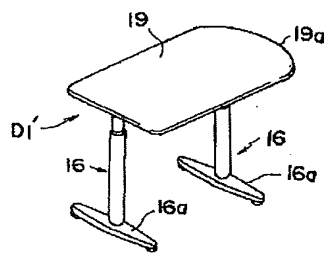
【図3】



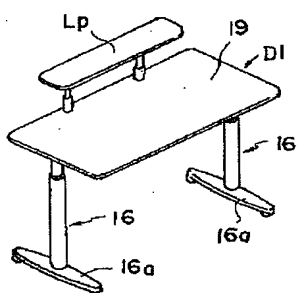
【図4】



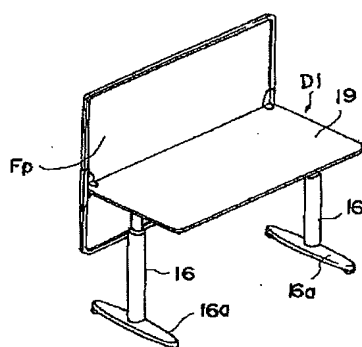
【図5】



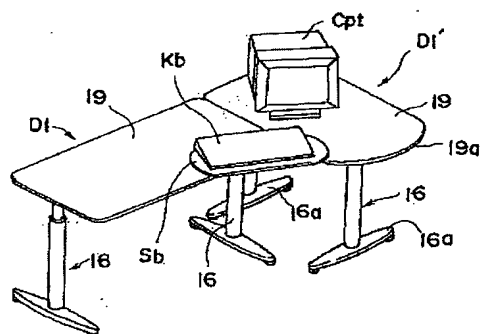
【図6】



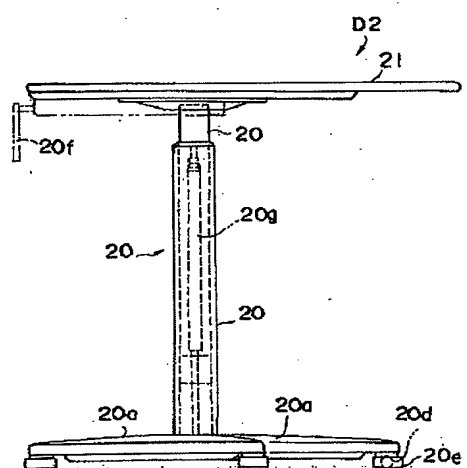
【図7】



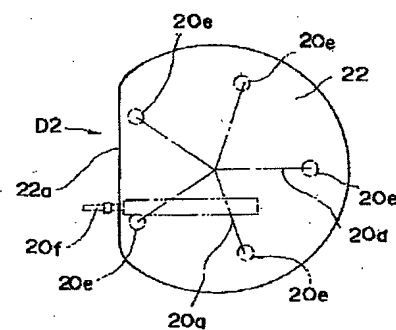
【図8】



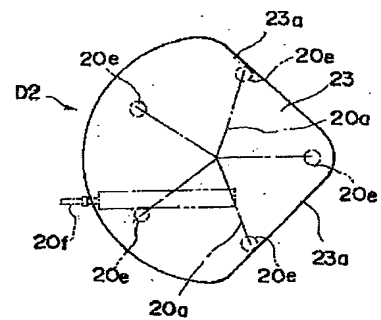
【図9】



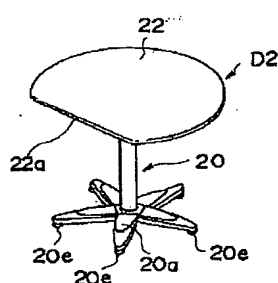
【図10】



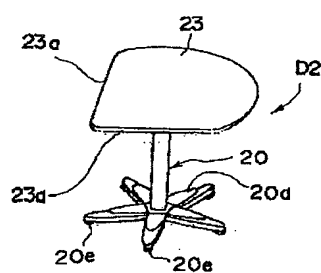
【図11】



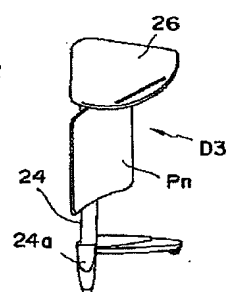
【図12】



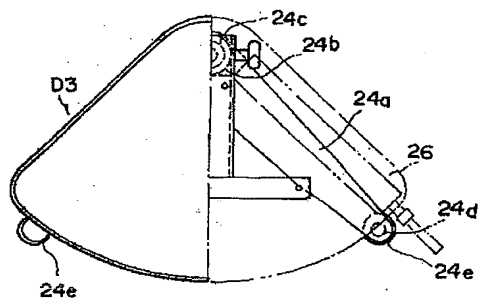
【図13】



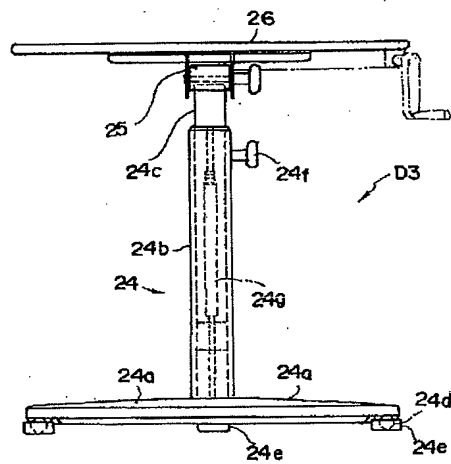
【図18】



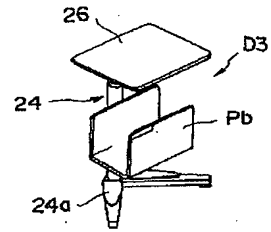
【図14】



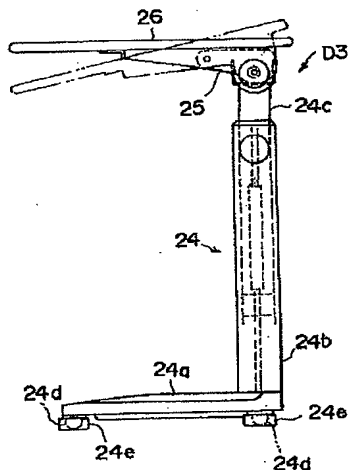
【図15】



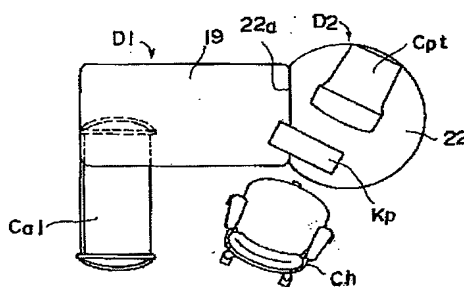
【図19】



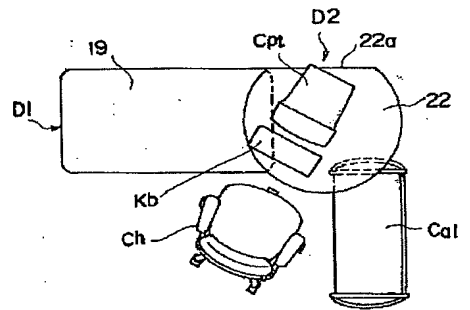
【図16】



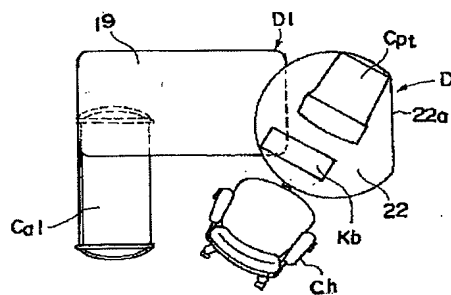
【図20】



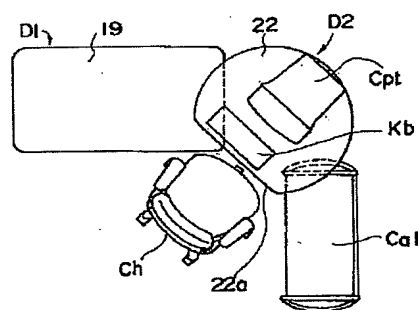
【図21】



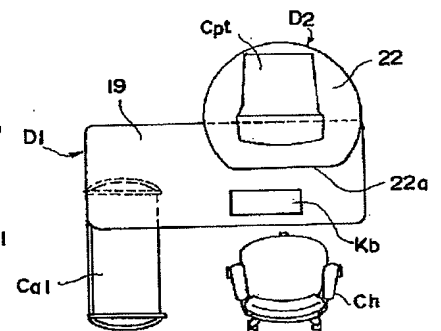
【図22】



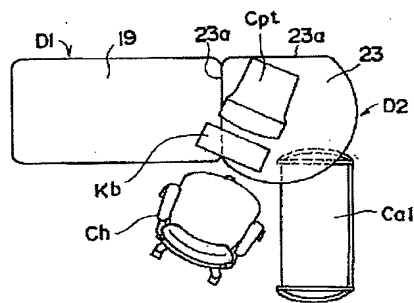
【図23】



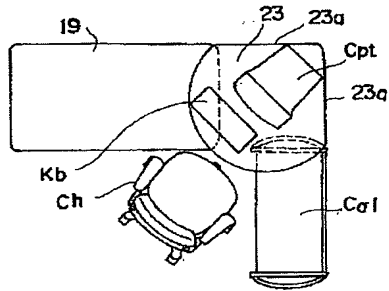
【図24】



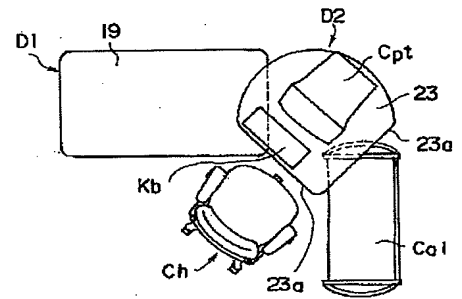
【図25】



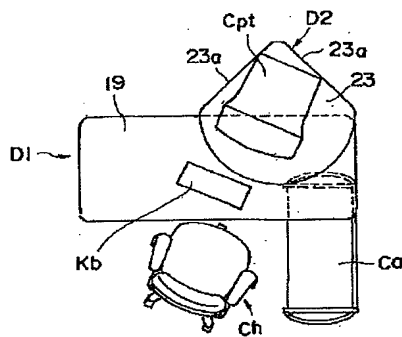
【図26】



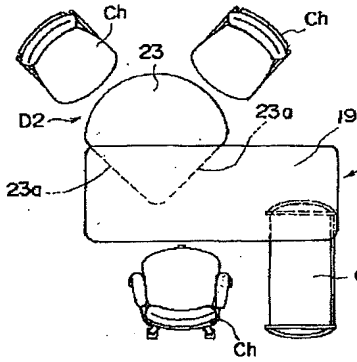
【図27】



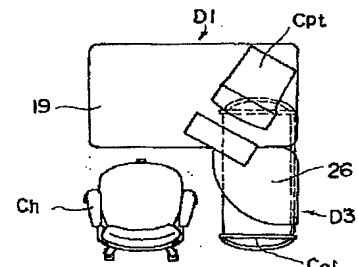
【図28】



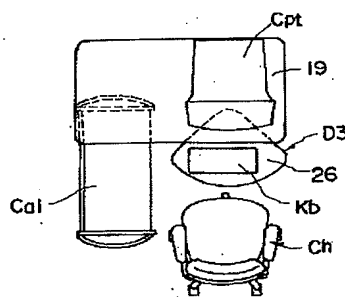
【図29】



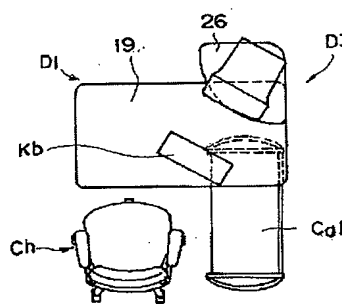
【図30】



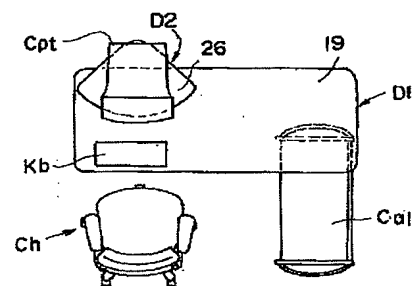
【図31】



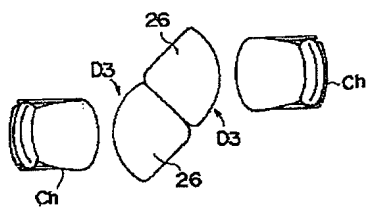
【図32】



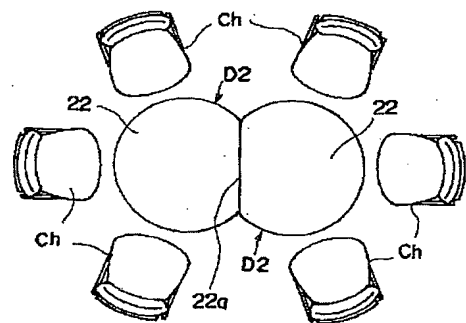
【図33】



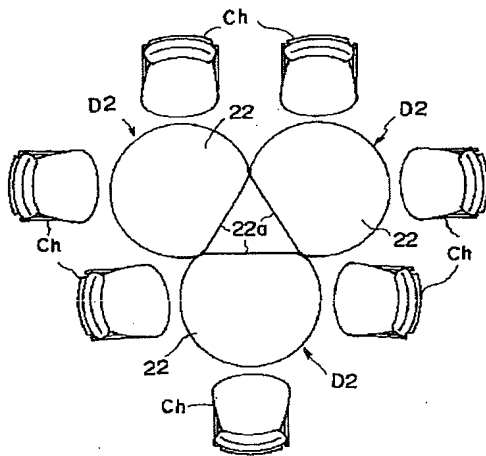
【図38】



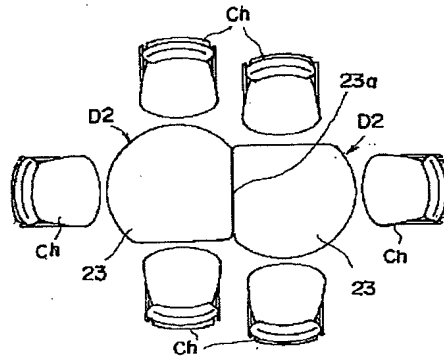
【図34】



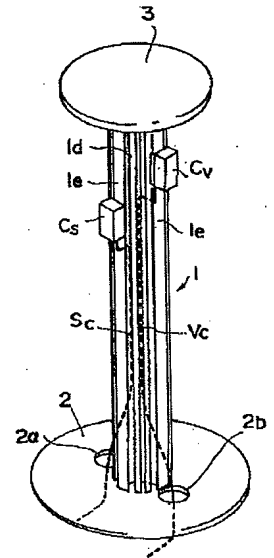
【図35】



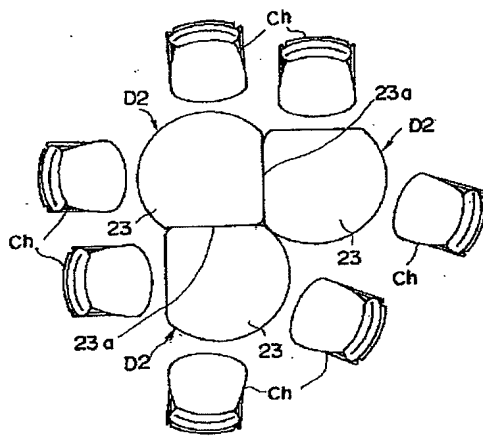
【図36】



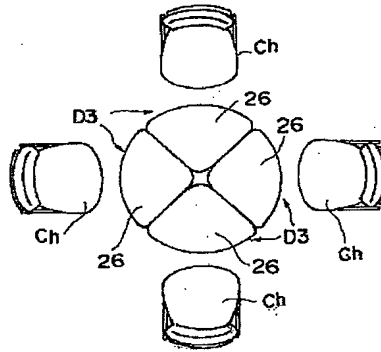
【図41】



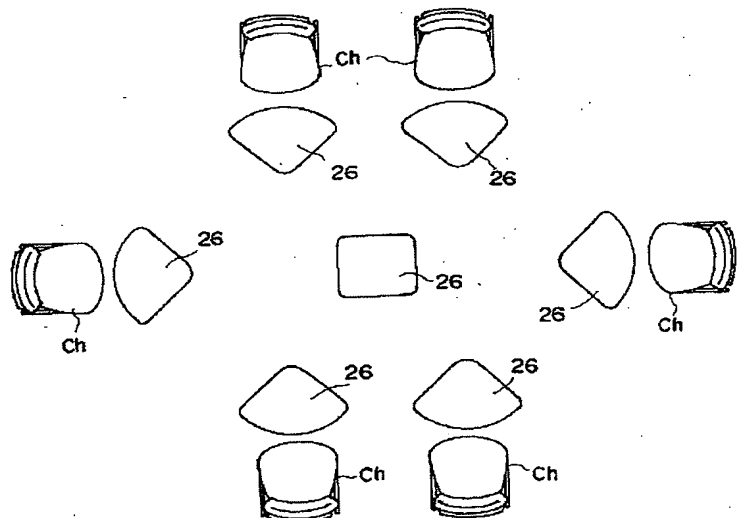
【図37】



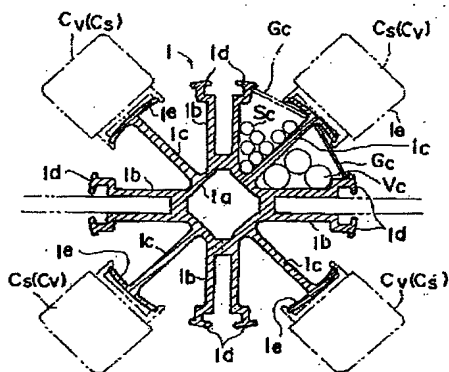
【図39】



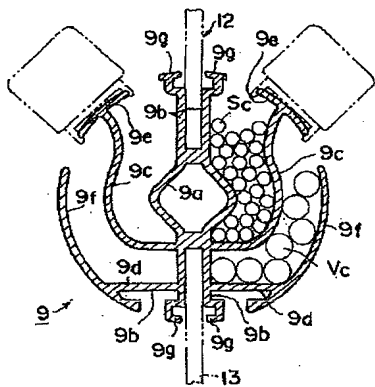
【図40】



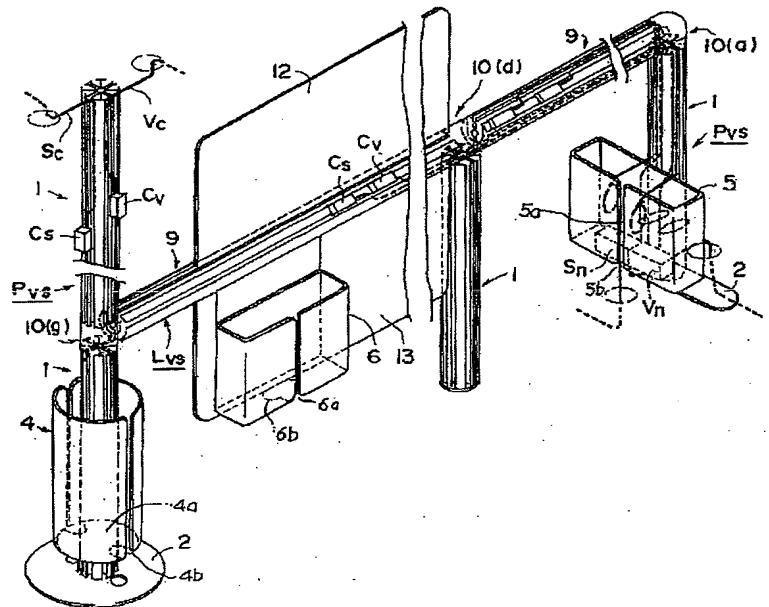
【図42】



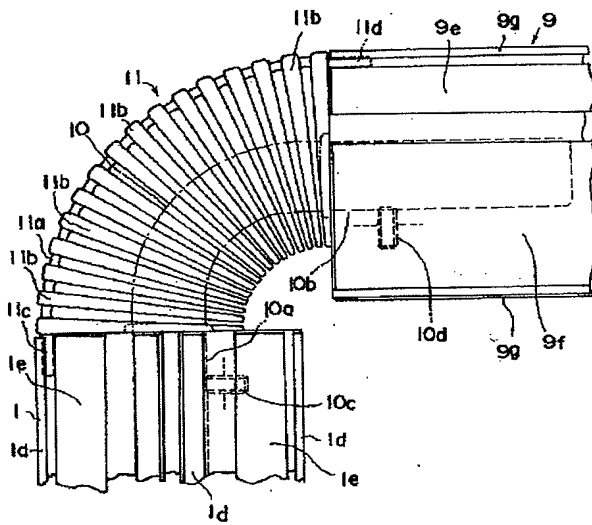
【図43】



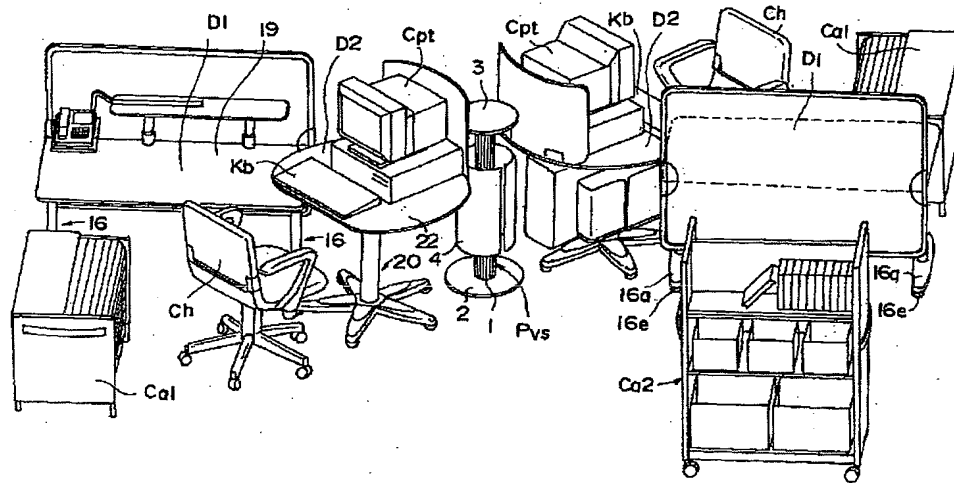
【図44】



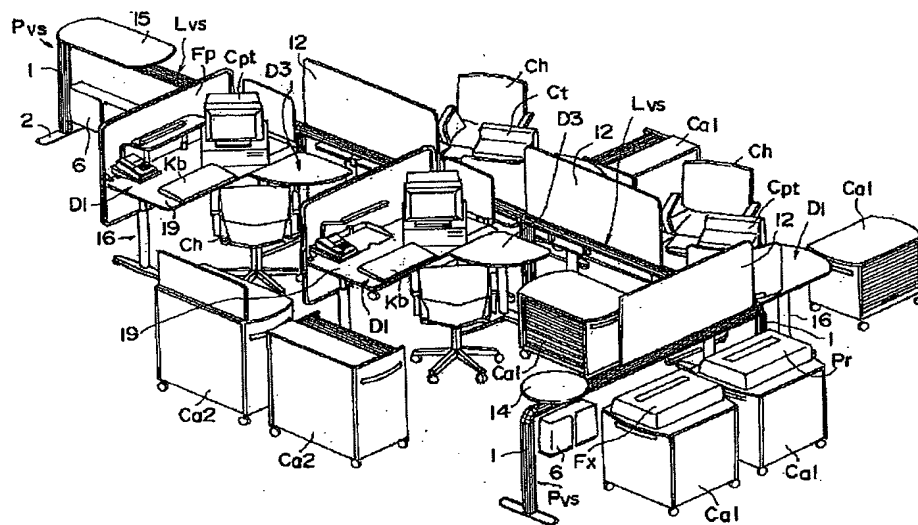
【図45】



【図46】



【図47】



フロントページの続き

(51)Int.Cl.[°]

A 4 7 B 37/00
91/02
91/06

識別記号

5 0 5

F I

A 4 7 B 37/00
91/02
91/06

5 0 5 Z

(72)発明者 小 杉 健 一 郎

大阪府大阪市中央区淡路町1丁目6番11号
株式会社イトーキ内

(72)発明者 古 澤 可 彦

大阪府大阪市城東区今福東1丁目4番12号
株式会社イトーキクレビオ内